

意識障害を主訴に受診した乳児の尿中よりベンゾジアゼピン類を検出した一例

◎細川 詩奈¹⁾、小野山 卓志¹⁾、江口 光徳¹⁾
医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院¹⁾

【はじめに】ベンゾジアゼピン類(以下,BZO)は睡眠薬、抗不安薬として広く処方されており、自殺企図や事件に使用されるケースが多い。今回、意識障害を主訴に来院した乳児の尿中より BZO を検出した稀な症例を経験したので報告する。【症例】生後 8 か月の乳児。搬送当日、母親から見て目線が合わず、体幹のふらつきや嘔吐があったため救急要請。診察時、目線合わず、機嫌不良、傾眠傾向を認めた。意識状態は不明瞭で、心拍数 132 回/分、血圧 92/54 mmHg、SpO₂ 97% (Room Air)、体温 37.5°Cであった。血液検査と頭部 CT を施行するも意識障害の原因を指摘できる所見はなかった。救急外来にて経過観察するも改善なく母親の希望で精査加療目的に入院となった。【経過】入院後、髄液検査、頭部 MRI を施行するも明らかな異常所見を認めなかった。薬物中毒の鑑別のために Signify™ ER を実施したところ、BZO が陽性となった。同日朝に実施した脳波検査でも薬物摂取を疑う所見が認められた。母親に経緯を説明し聞き取りを行ったところ、母親の交際相手が患児のミルクに薬物を混入した疑いがあるため警察と児童相談所が介入する

運びとなった。警察に提出した尿の残余検体を用いて当院の QTRAP4500MD (AB SCIEX 社) で分析したところ、ブロマゼパムとゾルピデムを検出したため小児科医に報告を行った。その後、患児は軽快し入院 9 日目に母親と退院となった。後日、警察機関での薬物検査の結果が小児科医に伝えられ、BZO として前述の薬剤が検出されたとのことであった。どちらも催眠作用を有する薬剤であるがブロマゼパムは眠気、ふらつき、嘔気など患児の症状と合致する副作用が報告されている。【結語】今回、意識障害を主訴に救急搬送された乳児の尿中より 2 種類の BZO を検出した。本来、乳児に処方されるはずのない薬物が検出キットで陽性となったため、さらに LC-MS/MS で精査を行ったところ同定に至った。捜査機関よりも早く検査結果を臨床へ報告できたことは臨床検査技師として誇るところである。今回の症例を糧に今後も薬物中毒検査に尽力したい。

宇治徳洲会病院 検査科 中央検査室
連絡先：0774-25-2852 (検査科直通)